

踊る埴輪【古墳時代】

現在、前橋市立芳賀小学校にて保管されているこの人物埴輪は、小さな帽子をかぶり、両手を上にした男子をあらわしており、歌舞を演じる楽人をかたどったものと考えられています。

五代町中原の小古墳で出土したと伝えられていますが、確かな出土地点はわかっていません。

高さは63cmで、6世紀後半頃のものと考えられています。



埴輪・踊る男子像

芳賀の古墳

昭和10年に群馬県で一斉に行われた古墳調査の結果、芳賀地区には64基の古墳が確認されており、勝沢町のオブ塚古墳（市指定史跡）や五代町の五代大日塚古墳（市指定史跡）などが代表的なものとして挙げられます。五代大日塚古墳は、残念ながら周囲が切り崩されているため当時の形を残していません。オブ塚古墳は6世紀後半の全長35mを測る前方後円墳で、芳賀地区において最大の規模を誇る古墳です。横穴式の石室には4体の遺体が葬られていたほか、直刀や小刀・刀子・鉄鏃・耳環等の副葬品が見つっています。現在は残っていませんが、墳丘には円筒埴輪や人物・馬・大刀等の形象埴輪が配置されていたものとみられています。



オブ塚古墳石室

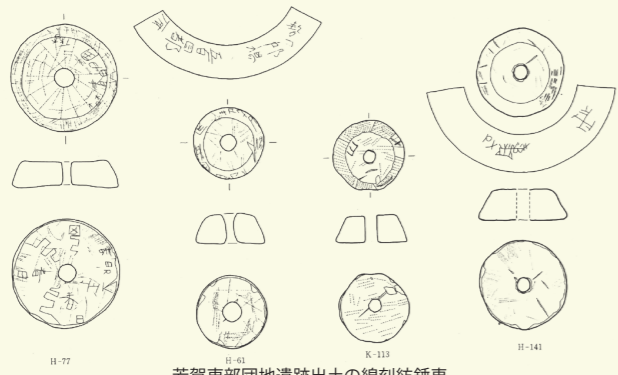


五代大日塚古墳

人物名が刻まれた紡錘車【平安時代】

芳賀東部団地遺跡では、糸を紡ぐために使われた紡錘車に文字や線が刻まれているものが見つかりました。H-61号住居からは「勢多郡□(楊) 五百□都□(厭)」と読めるものが出土しており、「勢多郡」は『和名類聚抄』に見られる勢多郡を指し、続く不明確な「楊」と見られる字は渡来人の姓と考えられています。さらにその後続く「五百□都□」はその楊氏の名と見られています。また、H-77号住居からは「春日部国麿」という人物の名が見え、この人物についての詳細は不明ですが、春日部姓は6世紀頃に安閑天皇の名代として置かれたものとされています。春日部姓はこれまで県内の文献等では記されていませんでしたが、この資料によってその存在が確認されました。

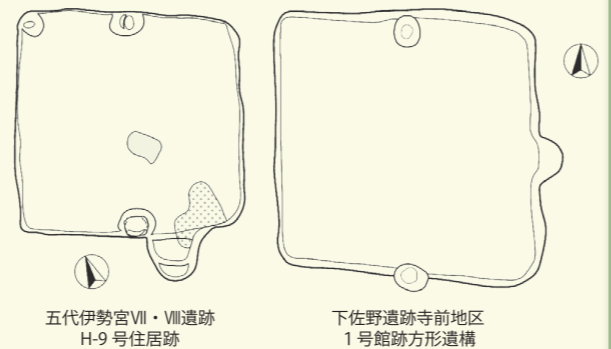
これらの線刻紡錘車は、税として納める調布に使用されたため、その郷戸主の名前等が刻まれていると考えられており、渡来人の楊氏は機織りの技術をもたらした人物の一人と見られています。このような背景から、この地域が律令制の中に組みこまれていたことがわかり、地形から見ても、養蚕や機織りが盛んな場所であったことが想像できます。



芳賀東部団地遺跡出土の線刻紡錘車

遺構覆土に浅間B軽石を含む堅穴建物跡【中世】

五代伊勢宮Ⅶ・Ⅷ遺跡では、浅間B軽石が覆土内に認められた堅穴建物跡を検出しています。浅間B軽石は1108年(天仁元年)に浅間山の噴火によって降下した火山噴出物の軽石です。類例は多くありませんが、竈に似た張出を持つものとそうでないもの、焼土や灰・粘土を含むものとそうでないものなどで4分類され、張出についての性格は明らかになっていません。柱穴は古代の堅穴建物跡のように四隅にあるのではなく、壁面に2つのみ設けられています。高崎市の下佐野遺跡寺前地区や伊勢崎市の下淵名塚越遺跡Ⅳ区でよく似た形状の遺構が確認されており、これらは館跡に付随する14世紀頃の遺構と判断されています。五代伊勢宮Ⅶ・Ⅷ遺跡で見つかったものについても近い時期のものであることが考えられています。



五代伊勢宮Ⅶ・Ⅷ遺跡 H-9号住居跡

下佐野遺跡寺前地区 1号館跡方形遺構

まえばし 地下マップ 芳賀地区

前橋市教育委員会事務局 文化財保護課
Tel.027-280-6511 令和6年3月発行

北方から伝えられた さいせきじんぎぼう 細石刃技法【旧石器時代】

鳥取福蔵寺Ⅱ遺跡では、細石刃石器が350点以上出土しています。これはカッターナイフのような形をしており、骨や木軸に埋め込んで槍の先などとして使用されました。赤城山南麓の石器群の変遷は大きく5つの時期に分けられますが、細石刃石器は約16000年前頃の5期にあたる時期で盛んに使用されました。

細石刃石器の技法は、シベリアのバイカル湖周辺で生まれたとされています。その中でもこの遺跡に見られる細石刃技法は、樺太等を通して北から伝わった「湧別技法」で作られた石器です。藤沢川と寺沢川に挟まれた舌状台地と小河川から成るこの地域は、旧石器時代の人々にとっても暮らしやすい土地であったことを物語っています。



鳥取福蔵寺遺跡Ⅱ出土の石器

多種多様な縄文土器【縄文時代】

標高130m前後に位置する五代町周辺では、縄文時代の集落が継続的に営まれていたことがわかっています。湯気遺跡で草創期および前期、川白田遺跡では早期の土器片が出土しており、五代遺跡群で中期の土器・遺構を多数検出しています。この地域における縄文集落の最盛期は中期中葉頃であったと考えられており、出土した深鉢・浅鉢には多種多様な特徴が見られます。

赤城山南麓で作られた在来系の新巻類型や三原田類型をはじめ、長野県～南関東を中心に分布する勝坂式、関東北部や長野県に見られる焼町類型、千葉県に多く見られる阿玉台式、東北部に分布する大木系の土器も多く出土しています。このようなほかの地方で見られる特徴をもった土器の出土は、この地域の人々と遠方に住んでいた人々との交流があったことを示しています。おそらく河川を辿ってやってきた人々から影響を受け、在来地のものに留まらない様々な文様や装飾が土器に施されるようになっていったのでしょう。



五代深掘Ⅰ遺跡 No.2 出土遺物

空白の弥生時代

芳賀地区では弥生時代の遺構はほとんど発見されていません。弥生時代に入ると、日本では稲作が盛んに行われるようになります。稲作には水田を造るための水が必要不可欠であり、それに適した土地は水の湧く谷地などの低地になります。芳賀地区は傾斜面に位置しているため、弥生時代の人々は芳賀から低地へ移り住んだのかもしれませんが。

天文21年 (1552)	北条氏康、武蔵御嶽城(みたけじょう)を攻め落とす。平井城に迫ると、関東管領上杉憲政(のりまさ)、平井城を出て、上野国内を流浪する。
天文23年 (1554)	後北条氏、勢内村について、長尾・那波氏の所領争いの裁決を下す。
永禄3年 (1560)	長尾景虎と上杉憲政が越後勢を率いて関東進出。那波宗俊が赤石城を攻められ、降伏する。
永禄5年 (1562)	北条氏康が武田信玄の上野侵攻に同調し、厩橋城を攻撃する。この年、越後北条高広、厩橋城に入る。
天正6年 (1578)	上杉謙信が死去。その後、後継者争い、御館の乱が起こり、後北条氏による上野支配が進む。
天正10年 (1582)	滝川一益(かずます)が厩橋城に入城するが、本能寺の変で織田信長が倒れ、帰国する。越後北条高広が、後北条氏の沼田城攻略への参陣を拒否する。
天正11年 (1583)	北条氏政が厩橋領に侵攻する。
天正18年 (1590)	豊臣秀吉が全国を統一する。徳川家康が関東入りし、譜代の平岩親吉(ちかよし)を厩橋城に入封させる。
慶長6年 (1601)	平岩親吉が甲斐に移り、代わって川越から酒井重忠(しげた)が厩橋城に入る。
寛永14年 (1637)	酒井忠清(ただきよ)が藩主となる。この頃、「厩橋」を「前橋」と呼ぶようになる。利根川大洪水。
寛保2年 (1742)	藩主酒井忠恭(ただずみ)が姫路に転封となり、代わって姫路の松平朝矩(ともり)が入封する。
寛延2年 (1749)	前橋城下で大火。藩主松平朝矩が川越に移城する。前橋は川越藩の分領となる。
天明3年 (1783)	浅間山大噴火、各地に甚大な被害を及ぼす。
安政6年 (1859)	横浜開港に伴い、前橋の生糸が活況を呈する。
文久3年 (1863)	前橋町人有志から一万両近い献金。前橋城再築が正式に許可される。
慶応3年 (1867)	前橋城が完成する。大政奉還。
明治17年 (1884)	臨江閣本館・茶室完成。
明治43年 (1910)	臨江閣別館完成。

約2万4千年前	浅間山が山体崩壊し、前橋泥流が発生する。
約1万6千年前	前橋台地が安定化したと想定される。
3世紀後半	浅間山が噴火する(浅間C軽石が降下)。
4世紀	県内最古とされる前方後方墳の八幡山古墳や前方後円墳の前橋天神山古墳が相次いで造られる。
6世紀	榛名山二ツ岳が2度噴火する。
大化元年 (645)	大化の改新が始まる。各国に国司・郡司が置かれる。
大宝元年 (701)	大宝律令が制定され、国・郡・里制が施行される。
和銅3年 (710)	平城京遷都。
和銅6年 (713)	上毛野国を上野国と改める。この頃、国府が成立する。
養老4年 (720)	舍人親王(とねりしんのう)ら『日本書紀』をつくる。
延暦13年 (794)	平安京遷都。
天仁元年 (1108)	浅間山が噴火する(浅間B軽石が降下)。
文治元年 (1185)	源頼朝が守護・地頭の設置を認められる。
文永11年 (1274)	モンゴルが襲来する(文永の役)。
弘安4年 (1281)	再度、モンゴルが襲来する(弘安の役)。
弘安8年 (1285)	霜月騒動。安達泰盛が一族と共に滅ぼされる。
暦応元年 (1338)	足利尊氏が征夷大将軍になる。
永享12年 (1440)	結城合戦。上州白旗一揆に長野周防守・長野宮内少輔・長野左馬助が名を連ね、戦功をあげる。
享徳3年 (1454)	足利成氏、関東管領上杉憲忠(のりただ)を謀殺し、享徳の乱が始まる。
応仁元年 (1467)	京都で応仁の乱が起こる。
文明8年 (1476)	長尾景春、上杉氏に背き、武蔵五十子陣(いかっこのじん)を攻める。
大永7年 (1527)	長野左衛門大夫・同宮内大輔らが、惣社普海城(おうみじょう)を攻める。
天文10年 (1541)	那波宗俊(むねとし)・厩橋長野賢忠(けんちゅう)ら、横瀬泰繁(やすしげ)を金山城に攻める。